

供用種雄牛の体重推移 (%)

年次	開始時 体重	経過日数									
		1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10週
48年	100 (889 Kg)	91.5		86.8		83.7		83.1		85.8	84.0
49	100 (795)	91.9		91.8	84.3		93.1				91.4
50	100 (903)	97.7	92.1	90.4	89.3		86.0			85.6	83.3
51	100 (966)	98.1	93.0	89.2	85.6		81.5		81.0		77.6
52	100 (925)	100.2	96.9	96.5			92.0				87.2
平均		95.9	94.0	90.9	86.4		88.2			85.7	84.7

注 49年の使用開始時体重は、まき牛開始15日目から使用した4才牛を記載した。

3 指導上の留意点

- 1) 初経験の種雄牛を供用する場合は、放牧馴致が必要である。また編成頭数を減少すること。
- 2) 野草地など広面積牧区のまき牛繁殖は雌牛編成頭数を60~70頭とする。
- 3) 改良上から、種雄牛2頭以上の編成は避ける。
- 4) 近親繁殖を避ける。
- 5) ビブリオ病等の伝染性生殖器病の予防に留意する。

4 関連試験課題名

山地における集団肉用牛の繁殖方法の改善(昭48~52)

5 参考資料

岩手県畜産試験場成績報告書(昭48~52)

2 日本短角種の明け2才種付

1 背景と特徴

肉用牛の明け2才で繁殖に供用することの可否が論ぜられてきたが、ここでは日本短角種の山地集団育成牛を供用した試験結果からその実用化の目安を明らかにした。

2 技術の内容

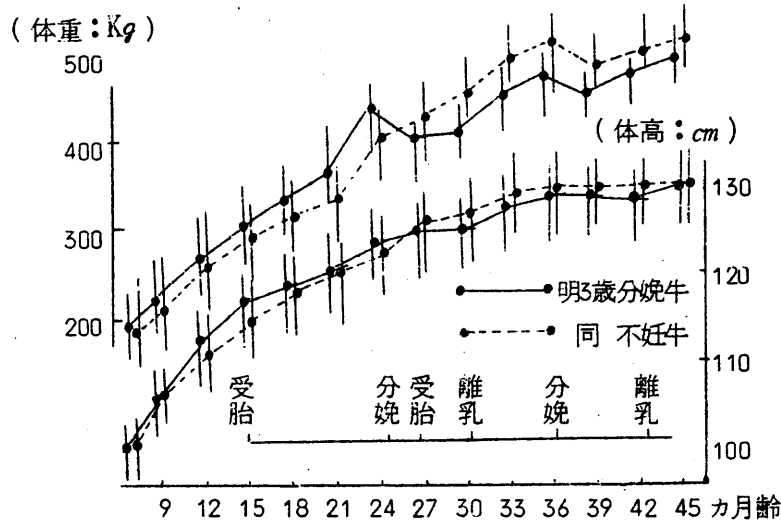
- 1) 連産性、明け3才の分娩牛(分娩率79.5%)の4才時の連産率は80.6%であり、また5才時にも休産はみられず、明け3才分娩がその後の連産性に対し阻害要因とならない。

明3才分娩牛の産産性

品 種	明3才分娩成績			明4才分娩成績			明5才分娩率
	区 分	頭 数	率 (%)	区 分	頭 数	率 (%)	
N	分 娩	31	79.5	分 娩	25	80.6	100.0
				不 妊	6	19.4	100.0
	不 妊	8	20.5	分 娩	8	100.0	87.5
				不 妊	0	0	—

2) 發育 明け3才時分娩前までは、分娩牛が不妊牛にくらべ優れる傾向にあるが、哺育期にはいって両者は逆転し、30カ月令(産子約6カ月令)でその差が体高では1.2cmとわずかであるが、体重では43kgで有意差が認められる。しかしその後、差は接近し45カ月令では体高で0.1cm、体重で16kgとなり成熟値が小さくなる懸念はないと思われる。

明け3歳分娩の有無と發育



3) 産子の發育

明け3才産子の發育値は離乳時体重で、5才以上の産子の發育値にくらべ、10%程度劣るが、その後産次を重ねるにしたがい順調に伸びている。

産子の發育 (210日補正離乳時体重: kg)

区 分	年令別産子の發育値			5歳以上産子の發育値
	3 歳	4 歳	5 歳	
明け3歳分娩牛	191 ± 16	202 ± 12	211 ± 16	215 ± 18
同 不妊牛		197 ± 15		

#### 4) 助産

明け3才分娩時の助産率は、41.9%と高いが、軽度の助産が多く分娩事故もみられない。

#### 助産

年令	品種	分娩頭数	助産頭数				助産率(%)
			1~2人	3~4	5人以上	計	
3		31	6	4	3	13	41.9
4	N	32	1	1	0	2	6.3
5		19	0	0	0	0	0

なお4、5才分娩時には、明け3才分娩の有無にかかわらず、ほとんど助産を必要としない。

#### 3 普及上の留意点

- 1) 当成績は70日間(5/中~8/下)のまき牛による(供用放牧地面積、牧草地2~5ha-56日間、野草地50~60ha-14日間)
- 2) 明け2才受胎牛の発育値は、不受胎牛にくらべ、優れる傾向にあるので、受胎率向上のため、交配時の発育値は体重で299±25kg以上、体高で116±2.6cm以上であることが望ましい。
- 3) 明け3才分娩時には、助産を要する場合が多いので注意する。

#### 4 関連試験課題名

山地における肉用牛の集団育成技術(昭48-52 岩手畜試外山分場)

#### 5 参考資料

岩手畜試試験成績書 48~52年

### 3 チンボールによる放牧牛の交配確認法

#### 1 背景と特徴

まき牛繁殖において交配を確認することは難しいが、チンボールを利用すれば監視人による慣行確認よりも精度が高く、しかも簡便で実用性が高いことが明らかになった。

#### 2 技術の内容

- 1) チンボールを利用した発情牛の発見率は約80%で監視人法よりも高率である。